

新春対談 市長×市民記者

市民記者の山崎さん、中里さんが、岡部市長に市政運営について聞きました。



雇用創出と地域経済、女性の活躍

(中里) 日本の企業が世界へ進出していく中で、その下支えとなるのが地域の経済かと思えます。佐野市への企業誘致が進み、雇用が創出され、女性の社会進出が進むことを期待しています。

(市長) 現在、市では「佐野田沼インター産業団地」の造成・分譲を行っているほか、「佐野インター産業団地(第2期)」の造成に取り組んでいます。

積極的な企業誘致に取り組むことで雇用の創出、定住人口の増加を目指しているところです。

(中里) 進出してくる企業への「おもてなし」などを考えていらっしゃいますか？

(市長) そうですね、産業団地に進出する企業には固定資産税などの優遇制度があるほか、助成制度を設けています。新設企業のみを優遇するわけにはいきませんが、出来る限りの支援を行います。安心して佐野市にお越しただけるよう、誘致に取り組んでいます。

(中里) 雇用が充実するとともに、社会において女性が活躍するためには、子育て環境の充実などが必要です。

私たちにも若い人のサポートができないかと考えています。

(市長) 本市では、放課後、保護者が留守の家庭の児童をお預かりする「こどもクラブ」の充実を特にご要望いただいていますので、平成27年度から施設整備を積極的に推進していきます。

また、市では昨年3月に「男女共同参画プラン(第二期)」を策定し、女性の活躍を推進しています。

こうした施策などを進めていく中で、地域の皆さんのお力をお借りすることも出てくるかと思いますので、その際はよろしくお願いします。

(中里) 先日、わたしも参加させていただきましたが、佐野市訪米団が派遣され、佐野市と姉妹都市であるランカスター市の皆さんと交流してきました。ランカスター市との経済協力などは行われないのでしょうか。



市民記者
中里聖子さん

(市長) 今回の派遣は、姉妹都市締結20周年を記念し行ったものです。私が団長で、寺岡篤国際交流協会会長、山口孝市議会議長を副団長に、島田嘉内商工会議所会頭など商工会議所の方々や女性団体の方々など、各界を代表する方々、総勢23名にご参加いただきました。

今回の派遣で、団員の皆様それぞれの立場でランカスター市などとの国際交流と親善に向けて、関係を結んでこられたものと考えています。

訪米団の参加された各界の皆様には、今回結ばれた関係をより一層発展させていただくことを期待するとともに、交流促進のための出来る限りのサポートをしていきたいと思えます。

庁舎整備・学校統廃合について

(山崎) 今年には新庁舎が完成し、



総合庁舎方式になるかと思いません。今後、田沼・葛生の庁舎はどうなるのでしょうか。

(市長) 新庁舎につきましては、社会経済情勢の変化により、全国的に労務の確保や資材の調達が困難になったため、70日間、工期が延長されることとなりました。引き続き市民の皆様にご迷惑をおかけしますが、出来るだけ早く開庁できるよう努めていきます。

さて、本市では平成17年の新設合併以来、本庁舎・田沼庁舎・葛生庁舎の分庁舎方式を採用し、各庁舎で行政サービスを提供してきたところですが、各庁舎への移動の時間や、市民の方の用件により訪れる庁舎が違うなどの問題が生じていました。こうした問題を解消するため新庁舎は、総合庁舎方式を採用

するわけですが、現在、今後の田沼・葛生庁舎の利活用を総合的に検討しているところです。

(山崎) 葛生に住む者としては、葛生庁舎がなくなり、職員もいなくなり、寂しい思いがあります。

(市長) 葛生地域については、(仮称)葛生行政センター整備基本計画(案)をお示しし、今月9日までパブリック・コメントを行って、皆さんのご意見を頂いているところです。

田沼庁舎については、現在検討を進めていますので、年度内にはその概要について、市の考えをお示しできるかと思えます。

田沼・葛生地域にお住まいの方にはご心配のことと思えますが、市民生活に身近な戸籍・住民票・諸証明の発行や各種届出申請受付など、現在の総合窓口課や行政センターの機能を有するものを考えています。

今後、地域の皆さんにご説明し、ご意見などを伺いながら整備計画を策定していきます。

(山崎) 子どもたちが少なくなっ

ていますが、小中学校の統廃合も進めるようですね。

(市長) 現在、複式学級を抱える学校の増加など、教育環境への影響が危惧される状況にあります。そのため、子どもたちに望ましい教育環境の実現を図るため、「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定を進めています。

この計画の策定にあたっては、各地域で話し合いを行い、ご意見をいただけてきました。今後とも未来を担う子どもたちの将来を考え、教育環境の整備に取り組んでいきます。

災害への備え

(山崎) ここ数年、地震や異常気象による被害が全国各地で出ていますが、市では備蓄など災害の備えができていますか。

(市長) 現在、地区公民館の敷地など市内17カ所に防災倉庫を設置して、備蓄品を分散して保管しています。地域防災計画では、本市の最大の避難者数を約7千人と想定し、3日分の飲食料などの備蓄に努めることとしてお

り、飲食料は1日分2万2千食・2万2千ℓを基準に備蓄し、残り2日分を県や災害協定先から融通してもらうこととしています。

また、主要避難場所に開設担当職員を置くとともに、緊急参集訓練などを行い、災害に備えているところです。

(中里) 11月の長野の地震の際には、地域で支え合った白馬村の例が報道されていましたね。

(市長) そうですね、災害の際には「自助・共助」が重要です。

皆さんも災害に備え、家族3日分程度の飲食料や日用品などを備蓄していただくとともに、近所の方々と顔を合わせ、共に助け合える関係を結んでおいていただきたいと思います。

対談を終えて

(山崎・中里) 本日はお忙しい中、いろいろなお話をありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

(市長) 市政運営には市民の皆様のご意見・ご協力が不可欠です。よろしくお願ひします。



市民記者
山崎ちか子さん

